

【出版物紹介】

越後 新津丘陵 里山の植物

(新潟県都市緑化センター)

巻頭に次のような序文を掲載し、本書の出版にあたっての意図を示したつもりである。

本書が新津丘陵の植物の保護につながることを切望している。そのために利用して頂ければ、出版の目的にかなうと思っている。

「里山の自然」の特色は、動植物と人との相互作用で作られた歴史の産物であるとの見方もできるように、人々は里山を身近な存在としてとらえ、長い間その恩恵を受けてきたことにある。しかし、近年、化石燃料の普及、農業形態や木材生産の変化に伴って山野へ入り込む機会が少なく、放置されている傾向が強くなり、動植物の生育・生息環境に変化がみられるようになってきている。里山に普通にみられた植物のオミナエシのように近年極めて稀になったり、草原が森林に変わったりして植生の変化が目に見える状態になってきている。地域によっては、その変化を知って過去の里山の状態に戻そうとする運動さえ進めている所もある。

新津の丘陵も過去には、もっと多くの人達に利用され、人との係わりの強い地域であり、ここに成立している森林からもその一端がうかがえる。しかしながら、新津丘陵の過去の自然の環境がどのような状態であったかを知る手掛かりは少なく、記録に残された資料も多くはない。過去に広く利用されていたといってもその実態を詳細に調べて記録してあるわけではなく、現状の変遷を知るために比較できるような資料が整理されていない。つまり、新津丘陵の自然の姿が十分に把握されていないと思われる。

新津丘陵は、海拔の低い山体ではあるが、地形の変化に富んでおり、気候も比較的温暖であることから、ここに生育する動植物も多いことが予想され、その総体を明らかにしておくことは、新津市の自然に関する財産目録をはっきりさせることにつながる。そのような観点から丘陵の自然を支える植物の実態把握は必須の要件である。新潟県立植物園の開園にあわせて、植物園周辺の丘陵における植物を明らかにしておくことは、極めて意義深いものと考えられる。

さらに、都市に近い新津丘陵一里山一は、市民に広く利用されるように遊歩道も整備されてきている。この時点で丘陵における自然の実態を調べて基礎資料を整え、これからの里山の保全やその適切な利用に役立てることが肝要と考える。

本書は、平成10年度に開設される新潟県立植物園の野外の博物館となるべきフィールドである新津市内の丘陵地を対象として、植物の種類、群落、森林の現状について、調査結果をもとに、可能な限り正確に記録することを主な目的としている。本書をもとに、市民に親しめる丘陵としてこれからも大切に保全する方策を考えると共に、健全な利用のための資料として活用して頂くことに力点を置いて出版することとした。

従って、本書が新津丘陵の植物の絶滅や破壊につながるようなことがあっては意図することと逆効果になるので、分布上で少ない植物や、分布上で特色のある植物、あるいは貴重な群落などは現状の保全に特に留意して頂く必要がある。新津市のすぐれた自然は、市の貴重な財産であるので、新潟県民、新津市民および訪問者には、その意義をよく理解頂き、絶滅や破壊につながる行為は避けて、かけがえない貴重な遺産として未来に継承するような配慮を是非お願いしたいものである。

(石沢 進)

本の紹介

越後 新津丘陵

「里山の植物」

監修 石沢進

新潟県立植物園の開園に合わせて、近隣の丘陵に植生する植物を集めた本格的な大図鑑。約800種の豊富な里山の植物、越後丘陵の自然。そんな身近な植物の魅力を再発見できます。

A4判 カラー印刷
332ページ
定価 3,000円(税込み)



問合せ先

〒950-0965 新潟市新光町5番地1 千歳ビル4F
(財)新潟県都市緑化センター

TEL 025-285-5510 FAX 025-285-5524